

日本自らの戦略で米国の空白を埋める



拓殖大学海外事情研究所所長

川上 高司

新たな世界秩序と日米関係 第1回 「グローバリズムの終わり」と新たな世界

今や世界的脅威の「北朝鮮による核・ミサイル開発」。安倍晋三総理はG7サミット閉幕後の会見で「北東アジアにどこまらない脅威に対し制裁強化を」と、国際社会全体で圧力を強める必要性を強調。一方、下馬評を覆し誕生したトランプ米大統領が掲げる「保護主義」は、G20などの国際会議で「グローバリズムの終焉」すら予感させた。今回、川上高司拓殖大学海外事情研究所所長が、新大統領の登場で激変する軍事・外交・経済など世界秩序と日本の対応について4回連載で語る。

米国が目指す保護主義、英国のEU離脱 G7・G20で垣間見た権謀術数の外交

現在、世界はグローバリーアリズムの旗頭の米国がズムの終焉に向かっている。保護主義に向かい、英國がののか。もしそうであるなら、来るべき世界はどのようになるのか。フランスの歴史人口学者エマニュエル・ドントは「グローバリズムにより貧富の差は広がり格差社会がひずみをもたらす」とし、米国でのトランプ大統領の誕生や英国のEU（欧州連合）離脱をみて、「グローバリズムの終焉」を宣言している。

トランプ大統領の誕生や英EU離脱、北大西洋条約機構（NATO）の軽視、そしてG7やG20での米国第一主義を強調に突き進む。一方、EUは昨年秋にカナダと自由貿易協定（FTA）を結び、貿易協定（FTA）を結び、かれた市場を維持する」とし反保護主義の原則を述べたもののその舞台裏では、米国はロシア、中国、韓国、日本、カナダ、メキシコなど、大枠合意、グローバル化を促進する。

従来G7では米国を中心とする主要国（旧西側）が、大枠合意、グローバル化を促進する。G7の首脳宣言では「開拓的・世界経済に関する首脳会合」で垣間見た。初旬に開催されたG20（金融・世界経済に関する首脳会合）で垣間見た。世界は今、かつてのグローバリズムの終わりを経験している。

今や世界的脅威の「北朝鮮による核・ミサイル開発」。安倍晋三総理はG7サミット閉幕後の会見で「北東アジアにどこまらない脅威に対し制裁強化を」と、国際社会全体で圧力を強める必要性を強調。一方、下馬評を覆し誕生したトランプ米大統領が掲げる「保護主義」は、G20などの国際会議で「グローバリズムの終焉」すら予感させた。今回、川上高司拓殖大学海外事情研究所所長が、新大統領の登場で激変する軍事・外交・経済など世界秩序と日本の対応について4回連載で語る。

（旧東側）に対する戦略を練る場であった。しかしながら今回のG7では一国主義の米国とグローバリズムの国家とに分断し同盟国間に仲間割れが生じた。

そして7月開催のG20でも保護主義とグローバリズムとの相克の場となり、その舞台裏では権謀術数の二つかり合う戦場となつた。

この状況は中世ヨーロッパの状況に似通つていて、NATOや日米同盟はこの状況は中世ヨーロッパでは大国間の勢力均衡（バランス・オブ・パワー）により平和となる。18世紀から19世紀の中世ヨーロッパでは大国間の敵国同士が「取引」をするため、絶対的な安全保障はそぞら否定できない。従来の世間がもたらされた。ここでは求められなくなる。

この状況をリチャード・ハース外交問題評議会（CFR）会長は「無極化の世界」と定義する。この状況下では数十のアクターが群雄割拠しパワーを競い合うものとのその舞台裏では、かれた市場を維持する」という戦略環境の下で日本はどう値観が享受可能である。

この状況をリチャード・ハース外交問題評議会（CFR）会長は「無極化の世界」と定義する。この状況下では数十のアクターが群雄割拠しパワーを競い合うものとのその舞台裏では、かれた市場を維持する」という戦略環境の下で日本はどう値観が享受可能である。

川上 高司（かわかみ・たかし）
拓殖大学教授。昭和30年、熊本県生まれ。大阪大学博士（国際公共政策）。米外交政策分析研究所（IFPA）研究員。（財）世界平和研究所研究員、防衛研究所主任研究官、北陸大学法学部教授などを歴任し、平成17年から現職。専門は安全保障論。趣味は気功やレコード鑑賞。著書は『トランプ後の世界秩序』『無極化時代の日米同盟』『米軍の前方展開と日米同盟』『アメリカ世界を読む』『国際秩序の解体と統合』など多数。

米国はなく、一国主義の米国が際だった。トランプ大統領は習近平主席と北朝鮮問題や米中の経済問題に時間を費やし、ブッシュ大統領とはG20会議を抜け出して長時間の交渉を行った。しかし、G20の場を使い、米露中の3カ国が世界情勢の調整を

するかのような錯覚に陥るような結末であった。専門は安全保障論。趣味は気功やレコード鑑賞。著書は『トランプ後の世界秩序』『無極化時代の日米同盟』『米軍の前方展開と日米同盟』『アメリカ世界を読む』『国際秩序の解体と統合』など多数。